

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学科における通信教育の開設									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オダワラジョシタンキダイガク 学校法人 小田原女子短期大学									
フリガナ大学の名称	オダワラジョシタンキダイガク 小田原女子短期大学 (Odawara Women's Junior College)									
大学本部の位置	神奈川県小田原市城山4丁目5番1号									
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神のもと、教養教育の基礎の上に食物栄養と保育に関する現代社会人として必要な専門知識と幅広い教養を身につけた人物を育成する。									
新設学部等の目的	保育学科通信教育課程は、子どもの人権を守り、暮らしの場面で子どもと向き合う人間性と専門性を備えた子どもの自立を支援する幼稚園教諭の養成を主たる目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	保育学科 [Earlychildhood Care and Education] 通信教育課程 [Correspondence Course] 計	年	人	年次人	人	短期大学士 (保育学)	平成26年4月 1年次	神奈川県小田原市城山 4-5-1		
		2	170	—	340					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成26年3月 保育学科通信教育課程専攻科設置関係学則変更届									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	保育学科 通信教育課程	講義	演習	実験・実習	計	62単位				
		25科目	32科目	3科目	60科目					
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		※通信教育課程の専任教員等の数については通学課程を兼ねる者14人、通信課程を専ら担当する者3人。
	新設	保育学科 通信教育課程	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
		計	5人 (5)	7人 (7)	2人 (2)	2人 (2)	16人 (16)	0人 (0)	14人 (13)	
	既設	食物栄養学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	3 (3)	11 (11)	
		保育学科	6人 (6)	7人 (7)	2人 (2)	2人 (2)	17人 (17)	0人 (0)	18人 (18)	
		計	10 (10)	11 (11)	2 (2)	2 (2)	25 (25)	3 (3)	29 (29)	
合計		10 (10)	11 (11)	2 (2)	2 (2)	25 (25)	3 (3)	30 (30)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		15 (16)	3 (2)		18 (18)				
	技術職員		0 (0)	0 (0)		0 (0)				
	図書館専門職員		2 (2)	0 (0)		2 (2)				
	その他の職員		0 (0)	0 (0)		0 (0)				
計		17 (18)	3 (2)		20 (20)					

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	12,180.60㎡	- ㎡	- ㎡	12,180.60㎡	運動用地			
	運 動 場 用 地	5,870.00㎡	- ㎡	- ㎡	5,870.00㎡	5,870.00㎡			
	小 計	18,050.60㎡	- ㎡	- ㎡	18,050.60㎡	借地, (期間 :			
	そ の 他	0㎡	- ㎡	- ㎡	0㎡	H25.4.1~			
合 計	18,050.60㎡	- ㎡	- ㎡	18,050.60㎡	H35.3.31)				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		8,880.76㎡ (8,880.76㎡)	- ㎡ ( - ㎡)	- ㎡ ( - ㎡)	8,880.76㎡ (8,880.76㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	1 2室	8室	7室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数	申請課程全体			
		保育学科 通信教育課程			3 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	保育学科 通信教育課程	67,400 [2,655] (67,381 [2,655])	65 [1] (63 [1])	0 [0] (0 [0])	6,177 (6,177)	179 (179)	24 (24)		
	計	67,400 [2,655] (67,381 [2,655])	65 [1] (63 [1])	0 [0] (0 [0])	6,177 (6,177)	179 (179)	24 (24)		
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		487.26㎡		114席	70,000冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		769.90㎡		-					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には・ データベースの整備 費(運用コスト含 む)を含む。
	教員1人当り研究費等		245千円	245千円	-	-	-	-	
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	-	-	-	-	
	図書購入費	4,300千円	4,300千円	4,300千円	-	-	-	-	
	設備購入費	16,783千円	22,022千円	15,000千円	-	-	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	255千円	255千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金, 資産運用収入, 雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	小田原女子短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	食物栄養学科	2	60	-	120	短期大学士 (家政学)	0.99	S32	神奈川県小田原市 城山4-5-1
保育学科	2	140	-	280	短期大学士 (保育学)	1.00	S47	同上	
附属施設の概要		該当なし							

教育課程等の概要																
(保育学科 通信教育課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	文学	1通		2		○			1						印刷教材	
	心理学	1通		2		○									兼1 印刷教材	
	経済学	2通		2		○									兼1 印刷教材	
	日本国憲法	1通		2		○									兼1 印刷教材	
	生物学	1通		2		○									兼1 印刷教材	
	基礎学力演習	1通		2			○		1			1			オムニバス 印刷・面接	
	総合文化	1通	2			○			1	1					オムニバス 印刷教材	
	児童館の機能と運営	2通		2		○									兼1 印刷教材	
	地域と福祉	2通		2		○			1						印刷教材	
	職業と社会Ⅰ	1通		1		○					1				印刷教材	
	職業と社会Ⅱ	2通		1		○				1					印刷教材	
	外国語	英語	1通	2				○								兼1 印刷教材
		英会話	2通		1			○								兼1 面接
	体育	健康・スポーツ理論	2通	1			○									兼1 印刷教材
		健康・スポーツ実技	1通	1					○							兼1 面接
	小計 (15科目)		6	19	0	—			2	2	1	1	0	兼7	印22 面3	
専門科目	子どもの食と栄養	1通		2			○								兼1 印刷・面接	
	子どもの保健Ⅰ	1通		4		○									兼1 印刷教材	
	子どもの保健Ⅱ	2通		1			○								兼1 面接	
	保育原理	1通		2		○				1					印刷教材	
	社会的養護	2通		2		○				1					印刷教材	
	社会福祉	1通		2		○								兼1	印刷教材	
	相談援助	2通		1			○			1					面接	
	児童家庭福祉	1通		2		○			1						印刷教材	
	家庭支援論	2通		2		○			1						印刷教材	
	情報処理論	1通		2			○							兼1	印刷・面接	
	卒業研究 (ゼミナール)	2通		1			○		5						面接	
	教科に関する科目	音楽表現ⅠA	1通		1			○		1	1	1	1			面接
		音楽表現ⅠB	1通		1			○		1	1	1	1			面接
		音楽表現Ⅱ	2通		2			○		1	1	1	1			印刷教材
		音楽表現Ⅲ	2通		1			○		1	1	1	1			面接
		造形表現Ⅰ	1通		1			○			1					面接
		造形表現Ⅱ	1通		1			○			1					面接
		身体表現Ⅰ	1通		1			○		1	1					面接
		身体表現Ⅱ	1通		1			○		1	1					面接
		言語表現	1通		1			○		1						面接
教職に関する科目	保育者論	1通	2			○				1					印刷教材	
	教育原理	1通	1			○								兼1	印刷教材	
	教育制度論	1通	1			○								兼1	印刷教材	
	保育の心理学Ⅰ	1通	2			○				1					印刷教材	
	保育の心理学Ⅱ	1通	1				○			1					面接	
	保育課程論	2通		2		○				1					印刷教材	
	保育内容総論Ⅰ	2通		1			○			1					面接	
	保育内容総論Ⅱ	2通		2			○			1					印刷教材	
	表現総合演習	2通		1			○							兼1	面接	
	環境指導法	1通		1			○				1				面接	
	健康指導法	1通		2		○			1	1					印刷教材	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	表現指導法	1通		2			○								兼1	印刷教材
	言葉指導法	1通		1			○		1							面接
	人間関係指導法	1通		2			○			1					兼1	印刷教材
	視聴覚教育	1通		2			○									印刷教材
	幼児理解の理論と方法	2通		1		○				1						印刷教材
	教育相談	2通		1		○				1		1			オムニバス	印刷教材
	保育・教職実践演習(幼稚園)	2後		2			○			1					オムニバス	印刷・面接
	教育実習指導	2通		1			○		1	2	1					面接
	教育実習	2通		4				○	1	2	1					面接
	乳児保育Ⅰ	1通		1			○			1						印刷教材
	乳児保育Ⅱ	1通		1			○			1						面接
	障害児保育Ⅰ	1通		1			○								兼1	印刷教材
	障害児保育Ⅱ	1通		1			○								兼1	面接
	社会的養護内容	1通		1			○			1						面接
	保育相談支援	2通		1			○									面接
	児童館実習指導	2通		1			○								兼1	面接
	児童館実習	2通		2				○							兼1	面接
	小計(45科目)	—		7	65	0	—	—		3	5	1	1	0	兼7	印41 面31
合計(60科目)	—		13	84	0	—	—		5	7	2	2	0	兼14	印63 面34	
学位又は称号	短期大学士(保育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<b>【卒業要件】</b> 所定の必修科目13単位及び選択科目48単位以上を修得し、合計62単位以上を修得すること。このうち、15単位以上は面接履修であること。 <b>【履修方法】</b> (履修登録の上限：42単位(年間))							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(保育学科 通信教育課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	文学	この授業科目では、中勘助の「銀の匙」、芥川竜之介の「トロッコ」、新実南吉の「久助君のはなし」等、子どもの発達や心理、成長を促す体験を描いた文学作品を講読し、作品内の色彩感や音感を始め五感に訴える表現を楽しみながら、子どもの内面世界を鑑賞する。更に文学作品のモチーフとして表現された子どもの成長にまつわる様々な心理的葛藤や体験を探求することで、自らの幼年期と比較し、そこに子ども時代の普遍的価値を見出す。	
	心理学	直感や経験から物事を考えるのではなく、実験的な手法や統計的なデータから、人の行動や心の働きを理解していくことを目的とする。 具体的には、自分がどのように物を見て考え、記憶しているかなど、普段の生活などでは当たり前になっていることを心理学の見地から考え、自分の視野を広げることを試みる。また、長い人生を生涯発達心理学から、人間関係を社会心理学から検討することで、人の心の働きを再考する機会とする。	
	経済学	この授業科目では、生活を「経済学」の視点から捉え、生活に必要な経済の基礎について、可能な限り簡単に解説していく。難しいと感じる経済ニュースを身近に感じられるように、この講座で経済を見る眼を養い、これからの実際の生活に役立てられるようにする。そのために、経済の基礎を身につけ、経済を見る眼を養い、実際の生活に役立てる知識を身につけるとともに、経済ニュースについて、問題発見能力、問題処理能力、事務処理能力を習得する。	
	日本国憲法	日本国憲法の拠って立つ理念・基本原理、基本的人権の内容について、学んでいく。特に、基本原理相互の関係性や、一つ一つの基本的人権が個人の尊厳性に基づくものであること、各人権が誕生した歴史的背景について、詳しく学ぶ。また、統治機構については、権力分立を中心に学んでいく。具体的には、立憲主義の考え方、個人の尊厳性、自由主義・平等主義・平和主義、および基本的人権の意義・内容と歴史的背景、民主主義と国民主権、福祉主義とその具体化、権力分立の意義・内容について扱う。	
	生物学	この授業を通じて、生物というもののしくみから、地球全体の生物や環境のつながりまでを学び、それらのバランスがいかに保たれているか、きっかけに自分自身と自然・環境とのつながりに目をむけることを目標とする。そのために以下のことを学んでいく。 ① 教養としての生物学的知識の習得。 ② 幼稚園教諭や保育士、あるいは栄養士としての生物に対する基礎知識を学び、実際に現場でどのように適応するかを考える。 ③ 周囲にある自然環境や生物と、われわれ人間の営みとの関係性を知る	
	基礎学力演習	教育者及び保育者に必要とされる基礎学力を習得すると共に社会人に必要とされる日本語力、常識を学ぶ。 (オムニバス方式 テキスト授業15回 面接授業15回) (3 大森英実 テキスト授業8/15回 面接授業7/15回) ① 基本的な日本語力(漢字、敬語表現等)を磨く学び。 ② レポート・感想文・実習園への手紙の書き方、間違いやすい教育用語・保育用語に関する学び。 (15 金澤久美子 テキスト授業7/15回 面接授業8/15回) ① 実習への応用を目的とした日本語検定受検準備。 ② TPOに応じたマナーや挨拶等、生活技術に関する学び。	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目	総合文化	<p>本学の教育方針（①自他共に敬い愛する人・②豊かな知性と感性溢れる人・③健やかな家庭・社会を担う人として育てる）を基盤にし、豊かに生きる力を育むことを目的とした総合科目である。</p> <p>① 自己を見つめ、人としての生き方・学び方を考える。                      ② 日本の古典芸能について理解を深める。                      ③ 芸術に触れて知性と感性を磨く。                      ④ 読書の楽しさ・面白さを実感する。                      ⑤ 社会人としての生き方を学ぶ。以上のテーマのに沿った、芸術鑑賞、読書等を通じてレポートを作成する。</p> <p>(② 吉田真理/8回)本学の歴史と建学の精神について、総合文化について、伝統文化コースについて、推薦図書感想文、自分の地元にある古典芸能鑑賞する、総合レポート                      (10 市野繁子/7回)美術館見学、博物館見学、自由選択図書感想文</p>	オムニバス方式
	児童館の機能と運営	<p>現代社会において児童福祉施設として児童館の果たすべき役割について学ぶ科目である。事例を通じて、児童館の機能と運営について具体的に理解を深める。そのために、児童館活動の基本的理念と歴史、日本各地における児童館の運営実態、児童館第三者評価の内容、児童館の関係法、実際の児童館活動の内容について学ぶ。</p> <p>さらに、2011年3月31日に発出された「児童館ガイドライン」についても理解し、児童館職員としての児童厚生員の資質を身につけることを目標としている。</p>	
	地域と福祉	<p>幼児教育者・保育者には、地域福祉に関する知識が必要である。この授業では、子どもと保護者を取り巻く地域における福祉の在り方を理解するために、地域福祉の理念と概念、歴史、法と制度、地域福祉計画、実践について、ノーマライゼーション、ソーシャル・インクルージョン、ボランティア、パートナーシップなどをキーワードとして学んでいく。受講を通じて、地域で活動する専門職としての幼児教育者・保育者の役割を意識化し、幼児教育・保育に生かせるようになることを期している。</p>	
	職業と社会Ⅰ	<p>「働く」意味と意義を学びます。仕事に就き、社会人としてどう生きるかを考えることを通して、職業観を確立しましょう。そして、自分の夢である保育士・幼稚園教諭として、様々な領域で働くことができるよう自分をよく知り、就職活動に取り組めることを目指しています。</p> <p>未来の自分の姿をより具体的に思い描き、方向性を探り、よりよい生き方を模索できるような受け身ではない能動的な態度が育成できるよう学んでいきましょう。</p>	
	職業と社会Ⅱ	<p>「働く」意味と意義を学びます。仕事に就き、社会人としてどう生きるかを考えることを通して、職業観を確立しましょう。そして、自分の夢である保育士・幼稚園教諭として、様々な領域で働くことができるよう自分をよく知り、就職活動に取り組めることを目指しています。</p> <p>未来の自分の姿をより具体的に思い描き、方向性を探り、よりよい生き方を模索できるような受け身ではない能動的な態度が育成できるよう学んでいきましょう。</p>	
外国語	英語	<p>保育現場での日常や行事等で必要とされる英語を学習する。将来保育現場で英語での対応が必要になった時に役立てることができるように、練習を十分取り入れて、必要な単語力・基礎的な会話力をしっかり養成する。目標は、① 保育現場で役立つ英語でのコミュニケーション能力養成② 保育士が日常業務や行事等で必要とする単語・熟語・会話文の習得③ 口頭での役割練習④ 他の国々の保育事情への理解の4点を定めている。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目	外国語  英会話	学生のspeakingとlisteningを強くするための講座である。たくさんの単語、文法、他の国のカルチャーを学んでい初級者を対象に聞く力、話す力をつける実践をする。新しい語彙を増やし、文法も学ぶ。他国のいろいろな文化に対する知識も深めていく、実践的な講座である。テーマは海外のカルチャーを知ること、海外旅行の場面設定で英会話力をつけることであり、目標は、外国のカルチャーを知って、英会話に興味を持たせ海外旅行に困らない程度の英語力をつけさせることである。	
	体育  健康・スポーツ理論	これまで元気で健康な人ほど、健康についてあまり意識せずに生活してきたと思う。しかし、健康は、自分の責任のもとに守られるべきものであり、自らの人生目標達成の大きな要素となるものである。本授業では、自己の健康を維持向上させる上で必要な基本的な知識と現代生活における身近な健康問題を取り上げ、健康生活実践の態度を身につけることを目的とする。そのために、健康の概念・定義の変遷と今日のウェルネスの定義及びホリスティックの健康観について学習するとともに、健康に過ごすためのポイントについて理解する。	
	健康・スポーツ実技	健康に関する基本的な知識やこれまで学習してきたスポーツ種目のスキルアップを目指し、また固定概念にとらわれず環境に応じたスポーツ展開の創造へと発展させ、実生活に役立つスポーツ実践、さらに生涯スポーツへと方向づけることを目的とする。そのために以下のことを行う。 ① 集団スポーツを通して体力維持・向上を目指す ② バレー・ボール、バスケット・ボールの基本技術のスキルアップを図る ③ 集団スポーツを通して仲間と協力してゲームを楽しむ ④ 生涯スポーツについて学ぶ ⑤ レクリエーションについて学ぶ	
専門 科目	子どもの食と栄養	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基本となる。そのため、保育者自身もこの時期の食事の重要性を十分に理解する必要がある。本講座では、食生活の意義や栄養の基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、各発達に応じた食事とはどうあるべきか、調理実習を通して具体的に学びます。食育の基本についても理解し、その実際を学ぶ。また、私たち自身の身近な食に関する諸問題についても学び、普段の自分たちの食生活を振り返り、望ましい食生活とはどうあるべきか考察する。	
	子どもの保健Ⅰ	発育途中にある乳幼児は環境の変化に対する適応力が低く、感染症にも罹りやすい。成人と異なり、健康の保持増進だけでなく、健全な発育を促すことが必要である。子どもの保健の知識はこのために重要であり、保育に携わる者として必要不可欠である。子どもの特徴、発育、栄養、子どもに多い症状、感染症、さらに必要な応急処置も含め講義する。また発達と母子相互作用では妊娠の成立についても講義する。	
	子どもの保健Ⅱ	本教科では、子どもの保健Ⅰの知識を基に、実際の技術の習得をする。保育施設・幼稚園などで、臨機応変に対応出来る様、「子どもの保健Ⅰ」の基礎知識の確認、保育士として健康観察の技術を身につけるとともに、病児のケアに必要な技術を習得し、必要な応急処置ができるようになることを目標としている。そのために、以下の内容を学んでいく。 ① 保育士として健康観察の技術を身につける。 ② 病児のケアに必要な技術を習得する。 ③ 必要な応急処置ができるようにする。 ④ 心肺蘇生法を会得する。 ⑤ 事故に適切に対応できる能力を身につける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	保育原理	幼稚園や保育園で行われている「保育」とは何か、保育という営みはどのように実践されていくのであろうか。本授業では、保育の理念、保育の目的・目標、保育の制度・歴史、保育の内容・計画・方法などを学ぶことにより、保育を行うための基本原理を明確にし、理解することを目的としている。さらに、保育者として、子どもの発達を理解し、「遊び」と「生活」の視点から、園生活における子どもたちの経験や活動について具体的に学んでいく。	
	社会的養護	現代社会における社会的養護の意義と歴史、制度や実施体制を理解し、施設養護の実際を、児童の権利擁護や自立支援、施設等の運営管理や地域福祉と関連させて学び、社会的養護の現状と課題を学習する。目標は以下の4点である。 1. 社会的養護の歴史的経緯と現状を理解する。 2. 社会的養護の体系、社会的機能を理解する。 3. 社会的養護の基盤となる原理を、児童福祉との関連において理解する。 4. 社会的養護における子どもの権利擁護及び自立支援の考え方を学ぶ。	
	社会福祉	本授業科目の目標は、以下の4点である。・社会福祉とは何かについて、歴史的背景からの成り立ちと、現代社会における社会福祉の制度・政策を学習する。 ・幼稚園教諭・保育士として、理解してほしい子どもを取り巻く家庭等の生活課題と、保育現場に必要な社会福祉の知識を修得する。 ・これらを通して、専門職に必要な対象の理解と、福祉の精神を学習する。 そのために、社会福祉の理念や意義社会福祉の対象者、多様な社会福祉の分野、社会福祉の法律と、福祉を支える仕組み、社会福祉援助技術を理解する。	
	相談援助	保育におけるソーシャルワークの具体的な応用を習得する。計画、記録、評価のあり方、他の専門職や地域との連携を含めた多様な事例を分析する。目標は以下の5点である。 ① 相談援助の概要と歴史を理解する。 ② 相談援助の方法と技術について基礎知識を得る。 ③ 相談援助の具体的なプロセスを理解し、人権尊重、自立支援、秘密保持等の保育士としての基本的姿勢を理解する。 ④ 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の方法と内容を理解する。	
	児童家庭福祉	保育士には、児童家庭福祉に関する知識と福祉職としての自覚や態度が必須である。この授業では、児童家庭福祉について学ぶことを通じて、福祉職としての保育者の役割を意識化することを期して以下の内容を教授する。 1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷 2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等 4. 児童家庭福祉の現状と課題 5. 児童家庭福祉の動向と展望	
	家庭支援論	この授業の目標は、以下の4点である。 1. 家庭の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 そのために、家庭の機能の変化や現状、社会的背景、関連分野の実践、法体系、子育て支援サービスについて学習し、実際に家庭支援に取り組む際に役立つ、多角的且つ具体的な方法と考え方について、事例を活用しながら習得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	情報処理論	Windowsの基本的な操作、情報モラルの習得、セキュリティに関する知識、アプリケーションソフト (MS Word, Excel等) の基本的な操作を通じ、教育・保育現場で作成される文書・図・画像・表の作成等の実践的な操作及び応用事例と著作権等に対する知識や表現方法も含め、文書作成技術の習得をするとともに、おたより作成、Webページの運用、教育・保育記録の電子化、保護者との連絡、会計管理など教育者・保育者として必要な情報機器操作の知識・技術を学習し、情報を自分の目的に適合するように使用できる能力を養う。	
	卒業研究 (ゼミナール)	各教員の専門分野に沿って学生が地域での調査等を通じて、事例研究を行い、卒業論文を執筆する。自らの視点で事例の観察記録を書き、研究・分析ができる保育者養成を目指した授業科目である。講義と各ゼミ活動からなっており、1, 2回目が卒業論文の書き方についての授業であり、その後卒業研究のテーマ・目的や方法等について考え、1年間の計画を各自が立て研究を進める。29, 30回目は、研究発表を行う。	
教科 に 関 する 科 目	音楽表現 I A	保育内容を理解し、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には音楽基礎理論、声楽と子どもの歌を中心にした子どもの音楽遊び、鍵盤楽器の技能、打楽器とこれを用いた子どもの音楽遊び、これらについての知識や技術を子どもの発達を踏まえながら学び、音楽環境や音楽遊びの基礎を学ぶ。	
	音楽表現 I B	保育内容を理解し、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には音楽基礎理論と伴奏法、声楽と子どもの歌を中心にした子どもの音楽遊び、鍵盤楽器の技術、打楽器とこれを用いた子どもの音楽遊び、これらについての知識や技術を子どもの発達を踏まえながら学び、音楽環境や音楽遊びの基礎を学ぶ。	
	音楽表現 II	音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には、保育者として必要な器楽演奏や弾き歌いについての技能や知識、ソルフェージュ等を学習すると共にコード伴奏法を学ぶ。また音楽教育のメソッドを学び、歌唱や器楽演奏、身体表現を組み合わせた子どもの音楽的な遊びを学習する。	
	音楽表現 III	音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。保育における子どもの音楽遊びを、子どもの発達や季節の子どもの歌、音楽的な要素などから実践的に学習する。音楽表現技術の学習では保育者として必要な音楽基礎知識や音楽技能、豊かな表現力を身につける。また、保育実践において必要な伴奏法の知識や技能を身につける。	
	造形表現 I	子どもの保育内容を理解し、造形遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験をする中で、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や表現活動に関する保育技術を習得する。ここでは先ず、平面素材である、水彩絵の具やクレヨンなどの描画材に着目し、版画表現から生まれる無作為の表出の美しさを知ると共に、表現の可能性の幅を知り、保育現場への活用法を学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	教科 に関する 科目	造形表現Ⅱ	造形表現Ⅰを基に、保育者として必要な造形表現に係る教材等の活用及び作成法を習得する。また、子どもの経験や様々な表現活動と造形活動とを結びつける遊びの展開や、イメージや感性を養う環境構成及び具体的展開のための保育技術を習得する。ここでは、立体での表現の素材に着目する。粘土、木、紙、生活素材など、保育現場で使われる主な素材を学ぶと共に、扱い方を知り、可能性を探る。そして、それらの保育現場への活用法を学ぶ。
	身体表現Ⅰ	この授業科目では、動きのある遊びを通して、子どもの発育・発達を促すとともに、運動能力や体力の基礎となる力を養うための、子どもの運動遊びの基本について、子どもの発育・発達に応じた運動技能を系統的・段階的に理解し、学ぶことを目的とする。また、様々な動きの総合や応用、道具の利用などを含め、子どもの発育・発達に応じた運動遊びの内容や指導、展開の構築方法、また運動遊び指導のための環境設定や安全管理の方法を学習する。	
	身体表現Ⅱ	この授業科目では、「身体表現Ⅰ」で系統的・段階的に理解し、習得した運動技能についての知識や技術をもとに、自己表現の方法や、1年間の行事予定なども考慮した運動遊びを学ぶことを目的とする。また、子どもが、楽しく、さらに自らすすんでからだを動かせるプログラムを作るための方法を検討するとともに、保育の現場で実践している運動遊びの体験を通して、運動遊びにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を定着させる。さらに、さまざまな工夫を凝らし、独自の指導方法を考案する。	
	言語表現	この授業科目では、子どもの発達に深く関わる絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等、保育教材に関する知識と活用の技術を学び、子ども自らがそれらの児童文化財等に親しむ経験と保育環境について考察を巡らす中で、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を習得する。具体的には絵本、紙芝居、ストーリーテリングに特化して演習を行い、それらの活動を通して子どもが受容した物語と現実世界との往還についての事例を検討する。	
教職 に関する 科目	保育者論	この教科では、保育ニーズが多様化するなか、保育者（幼稚園教諭・保育士）に求められることは何かを考えていく。保育者の役割は、子どもの成長をしっかりと支え、一人ひとりの子どもの成長を促すことができる「専門性」を身につけることである。また、保育者の果たすべき役割を理解した上で、子どもや保護者にどの様な援助が必要なのか、そのためにはどのような専門性を身につけるべきなのか、保育者自身の葛藤と成長という視点から具体的に講義を進めていく。さらに、現在の保育者に求められている課題を検討する。	
	教育原理	この教科では、教育の理念、思想、歴史などの検討をとおして教育学の基礎的知識について体系的に学んでいく。また、幼児や子どもの教育に関わる今日的課題についても原理的に考察していく。授業の前半三分の二はテキストに沿って知識や概念の理解を深めていき、後半の三分の一では学生の問題関心を活かした課題提出に向けての作業も同時に進めていく。これらの学習をとおして、教育の現実（実践、今日的課題）について自らの考えを確立するための基礎を固める。	
	教育制度論	この教科は、教育職員免許法施行規則に規定されている「教育の基礎理論に関する科目」のひとつである。学校制度をはじめとする教育制度の仕組みや社会的役割に関する理解を深めながら、それらの現状や改革の動向についても考察していく。授業の前半三分の二はテキストに沿って知識や概念の理解を深め、後半の三分の一では学生の問題関心を活かした課題提出に向けての作業も同時に進めていく。これらの学習をとおして、現代日本における公教育制度とそれに関わる法令などを理解し、教育制度改革の動向についての理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目  教職 に 関 する 科 目	保育の心理学Ⅰ	子どもは自ら育つ力を持っている。その育ちを援助するために、発達の視点は重要である。人間の一生( life span )という視点に立って胎児期から老年期までを通してのヒトの行動の理解にとどまらだけでなく、子どもの発達にかかわる心理学の基本的な理論を把握し、今日の問題に注目する。特に保育の対象となる乳幼児の発達の援助に必要な知識や技術を学習し、責任ある幼稚園教育・保育とはどのようなことかを理解する。	
	保育の心理学Ⅱ	子どもの発達が保育者との相互作用によって違いがあることを学び、事例を通して心身の発達を促す保育実践に関して理解を深める。また、生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、生涯にわたる生きる力の基礎を作る為の保育者の姿勢やかかわり方について考察していく。さらに保育の場において、子どもの主体性を尊重しながらも発達課題に対する見立てにもとづく発達支援について事例をもとに考察し、就学支援にもつなげていく。	
	保育課程論	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育課程の編成の考えを学び、保育の計画の立て方と保育の評価について理解する。保育課程がどのように編成され、その内容がどのように指導計画に具体化されていくのか、事例を通して学ぶ。長期の指導計画・短期の指導計画の特徴を理解し、子どもの実態に即した計画をたてや環境構成する力を養う。PDCAサイクル(計画→実践→省察・評価→改善)により保育の質の向上を目指すシステムについて学ぶ。	
	保育内容総論Ⅰ	保育所保育指針・幼稚園教育要領を基に「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解する。保育内容の歴史的な変遷を学び、社会状況と保育内容の関連を考察することを通じ、大切にしたい保育内容に関して考える。保育の全体的な構造を理解し、子ども理解を深め、方法を具体的に展開できるように学ぶ。「生活」「発達」「環境」などをキーワードに保育内容の具体的な展開や「養護」と「教育」が一体的に展開できるように実践的に学ぶ。	
	保育内容総論Ⅱ	Iでの学びを基に、保育を総合的に捉える視点を確かなものにし、指導計画に基づいて集団遊びや活動が展開できるように「領域」や「行事」をキーワードに考えながら学ぶ。子どもや子ども集団の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録を通じて多様な視点から子どもを理解する。「環境を通しての、遊びによる総合的な、生活や発達の連続性に考慮した保育」等を多様に展開できるように目指す。今日の保育の課題として、多様な保育の必要性を意識し、長時間保育や多文化共生の保育について理解する。	
	表現総合演習	この授業では、領域「表現」について、演劇的手法やワークショップ型の学習方法を使って実際に身体を動かしながら学んでいく。そして保育所及び幼稚園における乳幼児の「表現」の指導法について共に考え探求していく。そのために、以下の授業内容で授業を行う。 ① 領域「表現」を理解し、日常の保育や行事での「表現に関する」具体的な指導法を学ぶ。 ② 保育者として自ら表現することを楽しみ、表現力を広げ深めていく。 ③ 「表現」に関する指導案の立て方を学び、立案及び模擬実習を体験する。	
	環境指導法	この授業科目では、保育所や幼稚園における「環境」とは何かを考えていく。さらに、子どもにとって「環境とかかわる力」を保育士・幼稚園教諭が育てるためにはどのようにしていったらいいのかを考察する。子どもたちが身近な生き物や自然、遊具等とかかわる様子やその体験の意味について理解する。この授業の目標は以下の通りである。 ①環境とは何か、を理解する。 ②環境とかかわる力を育てるためにはどのような保育をすべきか考察できる。 ③子どもの視点に立った環境を構成する心構えをもつ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  教 職 に 関 す る 科 目	健康指導法	この授業科目では、保育所保育指針・幼稚園教育要領における「健康」の目的である「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために、保育所保育指針・幼稚園教育要領の「ねらい」「内容」を理解する。そして、子どもが生き生きと生活できる環境を提供するための知識や方法を習得し、保育の中で実践できることを目指す。また、子どもの健康管理と、さらに、子どもが自主的に学び、考えられるよう生きる力を育み、健康を意識し、管理できる基礎づくりを指導できる保育者としての自覚と意識を持つことを目指す。	
	表現指導法	この授業科目では、幼稚園及び保育所における乳幼児の「表現」の指導法について考え探求していく。幼児期における表現は日常的なものが多く、保育者はそれに気づき、子どもの豊かな創造性へと発展させるために必要なものは何か。保育者に自身がクリエイティブな表現活動をする楽しさを知り、柔軟な姿勢で子ども一人一人の感動や発見に寄り添い、子どもの表現する意欲を受けとめ、表現するプロセスを大切にしたい援助ができる指導力の育成を目指す。	
	言葉指導法	保育内容の領域「言葉」について、「ねらい」「内容」を理解し保育活動の中で実践できるようにする。事例から以下の事項を考察する。子どもが感動したことや伝えたいこと等を自分なりの思いをもって伝え合うことの大切さ、乳幼児の言葉の発達のおくみと経過、子どもの豊かな言葉を育むための保育者の言語表現のあり方。子どもの言葉や想像力を豊かにするための保育文化財（保育教材）について演習を積み、効果的に用いる技術を身につける。	
	人間関係指導法	この授業科目では、子どもの「人間関係」について、全般的知識や課題を学ぶ。また、「育てる側の人間」としての学生の資質の向上を目指す。保育内容の領域「人間関係」の「ねらい」「内容」を踏まえ、子どもの人的環境について考える。子どもは「家族」という人間関係の中で生活を始め、徐々に関わりの世界を対象・場とともに周辺に広げ、園での集団生活に入っていく。この、子どもの成長過程の中で豊かな人間関係の基盤を築いておくことが、円滑な社会生活の営みにつながっていくことを理解する。	
	視聴覚教育	近年、メディアの加速度的な発達に伴い、保育などの教育現場では、写真やビデオを活用するなど、視聴覚メディアを日常のツールとして利用している。 本講義では、これまで実施されてきた視聴覚教育の歴史や意義について論じ、視聴覚メディアの種類と基本的な機能について理解することを目的としている。また、視聴覚メディアの効果的な教育利用について理解するとともに、幼児期の発達段階を考慮した視聴覚メディアのあり方について学ぶ。	
	幼児理解の理論と方法	幼児を保育・教育するためには、まず一人ひとりの幼児について理解を深めることが出発点となる。そこから、一人ひとりの幼児の発達に寄り添った援助が生み出される。本授業では、幼児を理解する方法とその視点、そして、それを踏まえた保育者の役割などについて学ぶ。幼児期の発達過程を理解し、一人ひとりの子どもの発達の課題に必要な援助を導き出すことのできる基礎的知識を習得する。また、日常的な事例をもとに子どもの行為の意味を考える力を身につける。	
教育相談	近年、家族形態が変化し、子育てに悩みながらも適切な援助を受けることが出来ず、どう対応していいか苦慮している親が増加している。保育現場では、子どもとの関わりばかりではなく、悩みを抱えている保護者から助言を求められることも多い。本授業では、相談およびカウンセリングの理論と技法を学び、保護者との信頼関係を築き、教育相談を適切に進めるための基本姿勢を身につける。 (15 金澤久美子 4/4回) 教育相談とカウンセリングの理論と技法の基本について学ぶ (8 宮川萬寿美 4/4回) 事例検討を通じ保育現場での保護者相談について理解し、その展開について学ぶ	オムニバス方式	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	教職に関する科目		
	保育・教職実践演習 (幼稚園)	幼稚園教諭として必要な基礎知識・技能を修得し、これまでの学習内容の成果を確認する。幼児教育に必要な知識や保育を構成する力を養う。求められる使命感・責任感・社会性・対人関係能力・学級運営等の資質・能力を自己評価し実践力を培う。 (オムニバス方式 テキスト授業15回 面接授業15回) (専任教員 テキスト授業8/15回 面接授業5/15回) 保育者の仕事について基礎的な内容を確認。保育者としての使命感・責任感を涵養し、学級経営の資質・能力を育む (③ 宮川萬寿美 テキスト授業7/15回 面接授業10/15回) 幼稚園教諭としての指導力・実践力を事例研究や地域の幼稚園の保育体験を通じて育成する	オムニバス方式
	教育実習指導	実習の意義・目的・内容の理解を中心に実習の準備と省察を行う。事前学習では、子ども・保育者・幼稚園に関する理解を意識化し自己の課題を明確化する。事後学習では、実習体験から自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲、実践力の獲得につなげる。目標は次の通りである。 ①事前学習を通して、実習を円滑に進めるための態度・知識・技能を修得し実習内容・実習課題を明確にする。 ②事後の省察とまとめの授業を通じて、実習体験を深化させる。 ③幼稚園就職への意欲、適性を体験から考察、進路決定をする。	
教育実習	2年次6月～12月を原則として同一の幼稚園で実習する。最初の一週間は見学を通じて幼稚園における子どもの姿や教師の役割について理解し、参加・指導実習に備える。最初の一週間の学びを生かし、次の三週間では、部分実習および責任実習を行い職務内容や役割を把握し、より深く体験的に認識を深め、保育の指導技術を身につける。 目標は以下の通りである。 ①子どもや保育者と生活を共にする中で、幼稚園の役割や特徴の理解を深める。 ②子どもと遊び、生活をする中で、発達の姿や興味・関心のあり方を学ぶ。 ③幼稚園教諭との仕事を通じて、環境の構成や援助等、幼稚園教諭の役割を理解する。		
	乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰでは、0歳から3歳未満児の発達を理解し、基礎知識を学ぶ。保育所保育指針の踏まえ、子どもの生活を多角的にとらえることにより、子どもの健康や安全、望ましい育ちや環境など、保育現場、育児現場などにおける保育の在り方を考える。また、保育所における乳児保育の特質を知り、3歳未満児に求められる養護と教育とは何かを学ぶ。さらに、ケーススタディを通して、様々な現場で実際に活用できる援助方法を習得する。	
	乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱでは、「乳児保育Ⅰ」で学んだ基礎的理論を軸に、3歳未満児の発達や生活、環境などについて多角的に理解し、保育者として必要な保育技術を、実践場面を想定しながら習得する。また、子どもを取りまく社会事情や母子関係問題などに対する見解を深め、「乳児保育に携わる人」の在り方を探る。資料作成、グループディスカッションを通じて、保育計画や保育方法についても理解を深め、乳児保育を総合的に捉え、実践に活用できる力を養う。	
	障害児保育Ⅰ	障害児保育Ⅰでは、障害児保育にかかわる全般的な問題を取り上げながら、一人ひとりの子どもの発達特性を理解し、保育現場で実践的に取り組むことが可能な支援法を習得する。そのために以下の内容で授業を行う。 ①一人ひとりの発達上の課題に対する特別な保育ニーズの観点から障害理解を促す。 ②障害児保育の基盤となる理念とその変遷、保育の現状と今後の課題を学ぶ。 ③障害児保育における遊びや日常生活動作を含む具体的な保育方法を理解する。 ④障害のある子どもへの個別的援助と家族支援、関連機関との連携のあり方を学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保育学科 通信教育課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	障害児保育Ⅱ	この授業では、障害児保育Ⅰで習得した内容を踏まえ、より専門的な問題を取り上げながら、保育現場で実践的に取り組むための支援方法を、理論・支援計画づくり・実技演習を通して習得する。授業内容としては、ムーブメント教育理論を発達支援の基礎とし、障害児保育の対象、各障害の概念や発達特性、統合保育の現状と意義等を取りあげる。また子どもの発達のアセスメントや乳幼児期における達成課題、ムーブメントプログラムの実際について、子どもをとりまく環境設定や遊具の利用法など、実技演習を取り入れながら展開する。	
	社会的養護内容	この授業はグループワークや事例検討を通じて子どもの養護のあり方について具体的に理解する。目標は以下の5点である。 ① 社会的養護における子どもの権利擁護や保育士の倫理について学ぶ。 ② 施設養護や里親等について現状と課題を学ぶ。 ③ 「自立支援」の考え方と、日常的な生活における治療的支援の実際を知る。 ④ 社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術に関する基礎を理解する。 ⑤ 社会的養護と、「家庭支援」「児童家庭福祉」「地域福祉」を関連させて学ぶ。	
	保育相談支援	本授業科目の目標は、以下の4点である。 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 保育相談支援は保育者が保護者の相談にのる多様な場面を想定して、その考え方や方法を学ぶ授業科目である。演習科目であるから、グループワークや事例検討を通じて以上の内容を学んでいく。	
	児童館実習指導	保育実習、教育実習を糧にしなが、児童厚生員の实習について学んでいく。児童館実習事前指導として児童館の遊びの準備、事後指導としての日誌・自己評価指導から構成されている。事前指導においては、児童館内で行う遊び指導等について学び、また、実習に向けた課題の明確化・計画表の作成などで実習に備える。事後指導はグループディスカッションと個別面接を通じて日誌内容や実践について振り返り、各自の成果、課題を理解する。	
	児童館実習	「児童館の機能と運営」「地域と福祉」などの児童館に視点を置いた授業科目に軸足を置き、保育士関連科目、幼稚園教諭科目をもとにしながら、児童館における実習と児童クラブにおける実習を経験する(10日間以上かつ90時間以上)。児童館実習は各学生の居住地域で5日間から10日間行い、児童クラブ実習は、児童クラブで児童館の実習日数を勘案して残りの時間数行う。なお、児童クラブは1日3時間程度の活動であるから、2日間で1日と計算する。	